

[成果情報名]成熟期が早く濃い赤ワインとなる新品種「ソワノワール」の開発

[要約]「ソワノワール」は「メルロ」に「ピノ・ノワール」を交雑して育成した赤ワイン用の新品種である。成熟期は育成地（標高 440m）において 8 月下旬で、「メルロ」より 10 日程度早い。ワインは色が濃く、適度な渋みがあり、味わいはまろやかである。

[担当]山梨県果樹試験場・育種部・醸造ブドウ育種科・渡辺晃樹

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

近年、温暖化により「メルロ」など既存の赤ワイン用品種においては着色不良が問題となっている。そこで、気温の高い本県の気象条件でも着色に優れ、成熟期が早く、ワイン品質の優れる醸造用ブドウ品種を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 「ソワノワール」は、栽培が容易でワイン品質が優れる「メルロ」に、早生でワイン品質が優れる「ピノ・ノワール」を平成 4 年に交雑し、選抜した赤ワイン用の新品種である（図 1）。品種名はワインの色が濃く、味わいが絹のように滑らかであることから、「黒い絹」という意味で命名された。また、本品種は令和 4 年 10 月 17 日付けで出願公表された。
2. 育成地（標高 440m）における成熟期は 8 月下旬で、「メルロ」より 10 日程度、早生の「ビジュノワール」より 5 日程度早い。着粒密度は中～密で、裂果の発生はみられない。冷涼な明野試験地（標高 700m）では 9 月中旬に成熟する（表 1）。
3. 果房重は垣根仕立てで 195 g 程度で「メルロ」よりやや小さい。果汁糖度は 19° Brix、総酸含量は 7 g/L 程度で、「メルロ」と同程度である。棚仕立て栽培では、果房重が 280 g 程度となる（表 1）。
4. 果実の着色を示す全アントシアニン含量は「メルロ」の 2 倍以上で、ワインの色も濃い（図 2、表 2）。また、明野試験地でもワインの酒色は濃い（表 2）。
5. 官能評価の評点は 12.5 点以上で「メルロ」より高い。ワインの渋みとなる総フェノール含量は 2,000 mg/L で、「メルロ」と「ビジュノワール」の中間程度となり、適度に渋みがあり、味わいはまろやかで、バランスが良いと評価される（表 2）。

[成果の活用上の留意点]

1. 栽培管理は「メルロ」等の欧州系品種と同様である。
2. ベと病や晩腐病等の病害の発生は「メルロ」と同程度である。安定生産にはカサかけ栽培等を励行する。

[期待される効果]

「メルロ」より早期に収穫可能で、着色に優れる赤ワイン用品種として、ワインメーカーや醸造ブドウ栽培者への普及が期待される。

[具体的データ]



図1 「ソワノワール」の果実

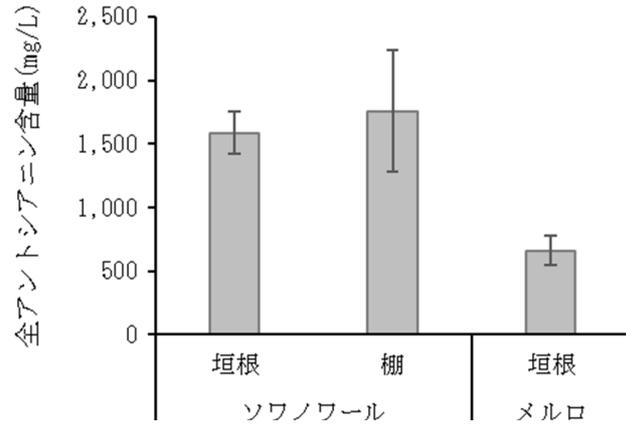


図2 育成地（標高 440m）における果実中の全アントシアニン含量 (2019~2022)

*図中の垂線は標準誤差を示す (n=4)

表1 「ソワノワール」の樹体生育及び果実特性 (2017~2022)

品種・系統	生育地 ^z	仕立て ^y	樹齢	裂果	収穫日 ^x	着粒密度 ^w	果房重 (g)	糖度 (°Brix)	pH	総酸含量 (g/L)	収量 ^v (kg/10a)
ソワノワール	育成地	垣根	17~22	無	8/23	中	195	18.9	3.44	7.3	1,270
		棚	15~20	無	8/25	中~密	283	18.9	3.43	6.6	1,736
	明野	垣根	4~7	無	9/14	中	178	18.8	3.35	7.5	1,379
メルロ	育成地	垣根	9~14	無	9/2	中	241	19.0	3.44	7.1	1,490
ビジュノワール	育成地	垣根	4~7	無	8/28	粗	189	18.9	3.47	6.8	1,383

^z育成地:山梨県果樹試験場(標高440m)、明野:明野試験地(標高730m)、^y垣根:ソワノワール(育成地)のみ垣根仕立て短梢剪定、それ以外は垣根仕立て長梢剪定、棚:棚仕立て短梢剪定一文字整枝、台木:101-14、^x酸含量が7.5g/Lを目安に収穫、^w極粗~極密(5段階)、^v収量調節実施:目標収量1300kg/10a程度

表2 「ソワノワール」のワイン分析値及び官能評価 (2017~2022)

品種・系統	生育地	アルコール分 (%)	総酸含量 (g/L)	pH	色調 ^z (吸光度)	総フェノール含量 (mg/L)	評点 ^y (総合点)	主なコメントの要約
					530nm			
ソワノワール	育成地	11.5	5.7	3.84	5.13	2,035	12.9	酒色が濃い、バランスが良い、渋みがまろやか、飲みやすい
	明野 ^x	11.2	5.6	3.83	3.12	1,694	12.5	果実香あり、バランスが良い、渋みがまろやか、飲みやすい
メルロ	育成地	11.5	5.7	3.71	1.65	1,263	10.8	酒色が薄い、渋みが少ない
ビジュノワール	育成地	11.6	5.7	3.95	3.85	2,997	13.0	酒色が濃い、渋みが多い

^z赤色の酒色の濃さを示す、^yワイン醸造組合員他による官能評価(のべ337名)(外観2点、香り6点、味わい8点、ハート4点の配点で最良20点)の平均、^x樹齢5~7年生(2020~2022)

[その他]

研究課題名:醸造用ブドウ新品種の育成

予算区分:国委(指定試験、農食事業)、県単

研究期間:1992年~2022年

研究担当者:渡辺晃樹、根本圭也、三宅正則、宇土幸伸、小林正幸、手塚誉裕、太田佳宏、上野俊人、三森真里子、雨宮秀仁、齊藤典義、齋藤寿広